

記載例

社会課題の解決と企業成長の同時実現に関する事業評価

<解決しようとする社会課題とアプローチ方法>

資源リサイクルや環境保全への取り組みに役立つ機器及び商品の開発を通じて、環境配慮に貢献するとともに、誰もが働きやすい環境づくりにもチャレンジする。

<社会課題解決に向けた事業活動と見込まれる自社への経済効果>

【社会課題解決に向けた現在の事業活動】

放置すると環境破壊につながる可能性のある一方で、処理が難しい廃タイヤをリサイクルできるよう、これまでタイヤ切断機器を開発・販売してきたが、その切断した廃タイヤを使った新たなリサイクル商品(家庭用)の開発のため、新部署を立ち上げ、試作品の開発を通じて、リサイクル商品開発のノウハウを蓄積し、新たな新商品の開発件数の増加が実現できている。

【社会課題解決に向けた挑戦的な事業活動】

廃タイヤを使った新たなリサイクル商品(家庭用)の生産の効率的かつ大量生産に向け、生産設備を増設するとともに、生産ラインの一部では、障がいをお持ちの方が作業に参加できるよう、障がいをお持ちの方用の治具の開発も併せて実施する。これにより、環境への配慮と新たなリサイクル商品の顧客開拓を図るとともに、障がい者の働く場の確保の両立を目指す。

【見込まれる自社への経済効果】

これまでBtoBの収益が大半であったが、新商品の開発により、BtoCビジネスとして、新たな顧客の開拓が可能となり、おおよそ〇〇円の収益を期待している。
また、新たな取組を実施することで、関係各所からの注目が集まる可能性があるほか、環境にも配慮した取組、障がいをお持ちの方にも配慮した取組を実施している企業としてのイメージアップも期待できる。

【事業活動のロジックモデル】

様式第4号にて記載

<事業活動を通じて5年後に目指す自社の姿>

廃タイヤを使った家庭向け商品が認知・浸透することで売上が拡大し、ダイバーシティ&インクルージョンに配慮した企業として、札幌市内だけではなく、道内から広く障がい者雇用ができるようになっている。

<事業活動を通じた自社の挑戦的な目標>

社会課題解決に向けた目標			
指標	分野	社会	障がい者の雇用率
現状	2023	年	2.5%
目標	2028	年	4.0%

企業成長に向けた目標			
指標	分野	経済	リサイクル商品開発件数
現状	2023	年	10件
目標	2028	年	30件

<事業活動を通じて見込まれる地域社会へのインパクト>

分野	見込まれる地域社会へのインパクト内容
環境	廃棄物を利用したリサイクル商品の販売増加により、札幌市全体の廃棄物の減少が見込まれる。
社会	障がい者雇用の拡大により、市内障がい者の活躍の場の増加に貢献する。
経済	製品の開発・販売に対して雇用が生まれ、札幌市全体の雇用者増につながる。

<地域社会へのインパクトに関連するSDGsのゴール>

																
		○					○	○		○	○	○				

事業活動のロジックモデル

	インプット	⇒	行動	⇒	アウトプット	⇒	アウトカム
	事業活動を行うために必要な資源(人材、モノ、資金)		事業活動を行うために必要な行動		行動によって生まれるモノ・サービス・状態		事業活動が目的としている効果
事業活動のロジックモデル	現在の事業活動 「廃タイヤリサイクル事業」に係る資源として、事業部△△名配置	⇒	試作品の開発	⇒	BtoC向けリサイクル商品開発のノウハウ蓄積	⇒	新たなリサイクル商品の開発件数の増加
	事業活動のロジックモデル リサイクル事業実施のための生産設備設置スペースの確保		生産設備の増設		リサイクル商品の生産		新たな顧客開拓
	現在の事業活動 障害者雇用▲名、治具開発者●名		障害者でも利用できる治具の開発		障害者の作業開始		環境への配慮と障がい者の働く場の確保の両立